

令和6年度

「はなやままるごと自然博物館」実施報告書

- 1 趣 旨 青少年教育施設の一つの役割である学社連携・融合を具現化する観点から、花山青少年自然の家が持つ教育環境・教育資源を活用した体験的な学習活動を展開し、新学習指導要領が目指す児童の生きる力の育成を図る。
- 2 主 催 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家
- 3 共 催 宮城県栗原市立花山小学校
- 4 期 日 令和7年7月3日（水）
- 5 参加者 花山小学校児童 2～6年 男5名 女3名 計8名
- 6 場 所 国立花山青少年自然の家
- 7 企画・運営のポイント
 - ・低学年と高学年の2つのチームに分け、発達段階に応じた沢活動ができるようにする。
 - ・沢活動をする際に、岩石や流れる水の様子、生き物や自然の美しさなど観察の視点を示し、理科学習へつなげる。
 - ・始めのセーフティトーク、沢での昼食会、終わりの振り返りは合同で行い、安全意識を高めるとともに、互いの学びを分かち合えるようにした。
- 8 日 程
 - 9：00 沢④ 集合
 - 9：15 花山小児童8名 沢登り④～⑩ ⑩で昼食
 - 12：30 沢④ 解散

9 活動の内容について

スタートの様子



低学年の様子



高学年の様子



昼食休憩



10 成果と課題

(1) 参加者の声

- ・初めての上流コースだったけれど、いろんな生き物がいて楽しかった。
- ・沢ガニや小さなエビを見つけた。飛びこみができうれしかった。
- ・沢の景色がきれいだった。来年もまた、沢登りをしたい。
- ・生き物が好きな子どもたちのペースに合わせて歩いてくださり、ありがたかった。(花山小職員)

(2) 成果

- ・各学年の発達段階に応じた沢活動を行い、低学年では生き物の観察、高学年では流れる水のはたらきなど、理科学習の理解を体験的に深めることができた。
- ・昼食や振り返りを学年合同で行い、それぞれの学びや沢活動の喜びを共有することができた。

(3) 課題

- ・児童の学びがさらに深まるように、声かけや補助資料などを工夫していきたい。

担当：企画指導専門職 渡邊 愛